

がんばろう 南三陸町

復興第82号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所

千葉総合印刷株式会社

本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068

企画・編集

志津川広報センター

南三陸町復興土俵入り



6月4日(火) 総合体育館

東日本大震災が発生した年の6月に、まだガレキ撤去が進まない中を、横綱白鵬関が来町した。被災した南三陸町の志津川中に一行が来町し、その後も多くの力士が炊き出しに訪れ町民を励ました。

そして今回で2回目の来町を果たした。日本相撲協会の挨拶では、「寄り添いながら未来へ進みましょう」と話した。町長の言葉では、震災後2回目の来町で「勇気と希望を届けてくれた」「目と心に焼き付けて欲しい」と語った。第71代横綱鶴竜関は、「心を込めて土俵入りをします」と挨拶した。また、荒磯親方(元横綱稀勢の里)は、引退記念の色紙を町に贈った。



会場には町民や町外からも多くの相撲ファン1500人が集まった。体育館はもと

より、2階席も半分が観客で埋まった。化粧まわしで現れた時には「鶴竜!」と町民から声飛び、四股を踏む時などは国技館さながらに「よいしょー!」の掛け声が飛び交った。

その他にも「呼び出し太鼓」や「相撲甚句」が付き添い力士から披露され、付き人力士の歌もあり、大相撲の儀式を味わった。一行には芝田山親方(元横綱大乃国)も同行し、横綱として大相撲を沸かせた顔ぶれに、観客も満足した。土俵入りの最後は横綱の握手会で、多くの町民の笑顔が溢れていた。終了後も、あさひ幼稚園向かいの志津川消防署の殉職消防士の慰霊碑に手を合わせた。



『よいしょー!』の町民の声響く

一行は帰りにさんさん商店街に立ち寄り、防災庁舎に向かい献花をし手を合わせた。商店街の来客にも記念写真やサインに応じていた。また「ホヤ大好き」と言う荒磯親方は、ホヤの刺身5個をペロリとたいらげ、私に出来る復興の活動は今後していきたいとも話す。「こんなに美味しいホヤを全国の人にも食べて欲しい」とアピールしてくれた。

仮設撤去後の 志小運動会



晴天の下で子供たちの歓喜

令和元年度の志津川小学校の運動会が、好天に恵まれた5月18日(土)開催された。児童会スローガンの『「あいさつ」「学習」「助け合い」進んで取り組む志小っ子』を掲げ、走って飛んで跳ねた笑顔いっぱいの運動会となった。

新工藤校長先生の挨拶では、①最後まで全力を尽くします。②転んでも泣きません。③お友だちを応援しましょう。と話し、「応援されると力がガンガン出る」「最後まで温かいご声援をお願いします」と語った。父母教師会の芳賀会長は「思う存分力を発揮してガンバって下さい。」「大きく成長した子供たちを見て下さい。」と述べた。赤白に分れての応援エールの交換では、志津川地区の高台の小学校から、保呂羽の山に子供たちの元気な声が響きわたった。

3年・4年の徒競走では、グラウンドを精いっぱい走る我が子に、

父母家族の応援の

声が広がった。3

番目の「平成JUMP 令和FLY」

と題された玉入れ

では、1年・2年

の子供たちとおと

うさんおかあさん

の踊りのあとに玉

入れゲームで、会

場からは多くの笑

いがもれ、スマホ

やビデオで撮影す

る姿がみられた。

玉入れは白組が2回戦とも大差で勝利した。4

番目の「来年は一年生」では、幼稚園児が元気に校庭を走り、お祝いのプレゼントを受けとっていた。



未来への教訓

復興! 大津波の記憶を風化させない

平成31年(2019年)

2月の出来事

～地元報道より～

南三陸町

◆南三陸町環境審議会は、家庭ごみの有料化について導入を推進すべきとの答申書を、31日提出した。今回の家庭ごみの有料化は可燃ごみの指定袋の価格に手数料を上乗せする形での町の計画。

◆県の富県宮城グランプリで、南三陸志津川さんさん商店会が地域産業革新部門賞に選ばれた。地域産業革新部門賞は、産業分野を問わず革新的な手法で地域の模範となる団体が対象になる。

◆台湾の大学生が町内に滞在して、31日には自国の文化を町民に紹介したり、台湾の家庭料理を作って会食する時間もあったりと、町と台湾の相互交流は広がっている。

◆気仙沼・本吉地方では福島県第一原発事故の影響で出荷に条件があり、原木シイタケの生産再開が進んでいない。再開は気仙沼1人、南三陸町3人にとどまっている。生産量は震災前の

1割となっている。

◆三陸道の歌津インターチェンジ(IC)ー小泉海岸インターチェンジ(IC)が午後3時から共用を開始する。区間内の歌津北ICが設置され、仙台方面との行き来のみ利用できるハーフIC。小泉海岸ICも仙台方面との行き来のみが可能なハーフIC。

◆旧松原公園付近で進められている防潮堤整備で先月、防潮堤設計ミス問題。守る事が決まっていた干潟に、土砂が投入されていたことで問題が発覚。県は設計ミスを認め、設計を修正する意向を示している。

◆南三陸町議会の定数削減に向けた議論が始まる。復興が進んだことや加速する人口減少により削減は避けられないと判断した。17年の町議選が無投票だったことで、有権者から定数削減や議員個々の資質向上を求める声が強まったことも挙げられる。

◆志津川地区の若手漁業者が、ヒジキの養殖に挑戦している。ホタテの貝毒やホヤの輸出制限、ワカメの種苗不足といった不安材料が積み重なる現状に危機感を抱き、新しい養殖種としてヒジキを考えた。

◆南三陸研究会、うみさと暮らしのラボ主催の講座「南三陸の中世」が、15日から町役場マチ

ドマでスタート。講師には前・県考古学会会長で、2013年から三陸南部で歴史文化遺産の調査に取り組んでいる田口則和さん。参加は無料で、講座は月1回のペースで9月まで開かれる。

◆南三陸町立伊里前小学校校庭で11日、ベガルタ仙台の菅井直樹さんとクラブコーディネーターの平瀬智行さんによるサッカー教室が開かれた。町内の小学生30人が参加し、昨シーズンまで現役選手だった菅井さんらとボールを使った鬼ごっこや、パス練習などで体を温め、ミニゲームで交流した。

◆12日、南三陸町志津川の八幡川でサケの稚魚が放流された。初日は、68万匹の稚魚を放流。今季の放流数は、約500万匹にとどまる見通しで、放流は4月まで行われる。

◆南三陸町卓球選手権大会が「ベイサイドアリーナ」で、10日開かれた。小学生から60代まで約110人がエントリーし、年代に分れて、シングルス、ダブルスのほかラージボール、ピンポンの各部門で熱戦が展開された。

◆南三陸町が初めてとなる町男女共同参画計画の素案をまとめた。計画期間は、19年度から25年度までの7年間。柱となる基本目標は六つで、「職場」「地域社会」「防災」など、それぞれの領域での男女共同参画推進に向けた施策の方向性などを定めた。

(前ページよりの続き)

◆南三陸町観光協会の語り部ガイドに、震災当時中高生だった2人の男性職員が来月デビューする。2人の語り部ガイドとしての初仕事は、3月9日、10日。

◆「語り部バス」を運行している南三陸ホテル観洋が、復興庁の「『新しい東北』復興・創生顕彰」を受賞した。観洋の語り部バスは震災直後、来訪者からの依頼が増えた道案内をきっかけにメニュー化した。開始から休むことなく運行を続けていて、来訪者に災害の恐ろしさや教訓を伝える取り組みが震災の風化防止につながっているなど、高い評価を受けた。

◆南三陸町歌津の泊浜漁港にラムサール条約に登録された志津川湾を分かりやすく解説する看板が設置された。看板にあるQRコードを使って、志津川湾のPR動画にアクセスすることができる。

◆南三陸町出身の高校生を対象に、次代リーダー育成を目指す「東北ミライリーダープログラム」が始まった。日米のリーダー育成に取り組んでいる公益財団法人「米日カウンシル・ジャパントMODACHIイニシアチブ」が主催したもの。1月の英語レッスンからスタートし、3月23日に渡米して約10日間の日程でワシントンなどを訪問する。

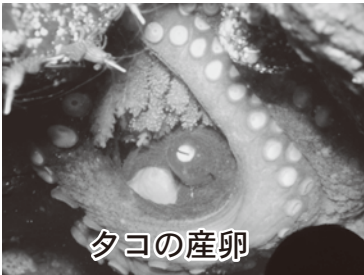
◆南三陸町戸倉の南三陸・海のビジターセンターで22日、東京の一流シェフらが旬のワカメを使ったメニューを試作した。新たな味わい方を提案し、試作メニューはバターとワカメを混ぜ合わせたワカメバター、ワカメをふんだんに使っ

た和風チジミ、ヒラメをワカメで巻いて蒸した和食で、ほとんどが家庭で手軽に作れるメニュー。

◆26・27日南三陸町を台湾の教育関係者が訪れた。「台湾教育旅行誘致促進事業」を活用し、宮城・山形・岩手の3県が協力して受け入れを図った。台湾から町内への教育旅行の受け入れは2015年にスタートし、今年2月までに延べ22校・約700人が訪れている。19年度はすでに6校が訪れる予定で、多くの学校が始めて訪れる。

◆南三陸町は事業所から排出される、ごみ処理手数料を引き上げる方向で検討していて、家庭ごみの有料化と同じ10月1日を見込んでいる。ごみの減量・資源化を進め、処理費用を抑制する家庭ごみの有料化と合わせ事業系ごみの手数料値上げに踏み切る考え。

知られざる南三陸の海の魅力



5月16日夜、生涯学習センターを会場にネイチャーセンター準備室の阿部拓三さんにより、ラムサール認定の志津川湾の魅力や、町民

の皆さんへの講演会があった。会場には30名余りの方々が熱心に耳を傾けていた。

拓三先生の経歴の歩みでは、北海道大学在学中に海の美しさと多様性に魅了され、2等航海士の資格を取り石垣島ではマグロ船にも乗ったという。大学ではヒグマの研究をし、北海道の山は殆ど歩いたと話す。

2015年に使えるツールとして、ラムサール条約と出逢い南三陸町に来たと言う。寒流と暖流の地域に生息する「マコンブ」と「アラメ」などの海藻と海草の育つ、他の地域にはない海の環境を日々潜り研究している。



潜水カメラで撮影した志津川湾の海を紹介してくれた。海底の岩場の色とりどりの生物の群生に、海メンやホヤなどの間やくぼみにオコゼカジカやダンゴ魚が暮らす、豊かな環境がラムサールの海「志津川湾」にはあると説明してくれた。志津川の真ダコの生態も映し出され、その神秘的な姿にその素晴らしさを再び認識させられた。

南三陸町の海にも多く生息するウミウシの生態では、イソギンチャクのポリープを食べる姿を、歌津の海底をカメラで撮影した。ウミウシはイソギンチャクの毒を体にためて、自分の身を守っている。まだまだ、海の生物の知らないことがたくさんあった。

ラムサールの志津川の海の科学的なデータを収集し、その積み重ねが準備室の活動であり、ネイチャーセンターを旧戸倉中学校への設置が

雨の中で松原干潟調査



6月8日正午から志高生と合同で

あり、多くの時間を潜水に費やしている。

時間の中で潜水具の装着や説明があり、ボンベの中身は圧縮空気であり酸素ではないことや、潜水具は総重量20kgにもなると言う。以前、水深25mで危ない事があったと、体験談もしてくれた。

ラムサールの使い方として、50年100年と

南三陸町人口の推移

(令和元年5月末現在)

	南三陸町	志津川	戸倉	入谷	歌津
22年3月	17,815	8,294	2,433	1,907	5,181
30年3月	13,141	5,374	1,428	2,006	4,333
令和元年5月	12,779	5,215	1,395	1,942	4,227
30年3月からの増減数	-362	-159	-33	-64	-106
世帯数	4517	2052	467	652	1346

(2019年6月の新聞記事より)

バランスの取れた環境の維持が必要と語った。2時間の「タクゾーワールド」に酔ったひとときだった。今後も毎月開催すると言う。

詳しくは町役場・ネイチャーセンター準備室へ。



岩の下まで調査する

松原干潟の合同調査会

当日は強い雨の中で、町自然環境活用センター



土の採種



危険な被災跡地にも

と志高自然科学部、その他にも研究者や関係団体の合同の生物調査を行なった。この日は南三陸青少年少女自然調査隊も参加の予定だったが、雨模様の海辺の海岸調査は危険と判断し、参加を中止とした。調査に入る前に、自然環境活用センターの阿部拓三研究員が「滑りやすいので気を付けて」「97種類の生物が見つかった」「岩もグラグラする」と、30人余りの調査団とメディアに注意をうながした。引き潮となりカキの稚貝が群生する岩場や、砂地の土を採取し番号の書かれたバケツと採種場所を記録した。土の採種方法も2つの干潟で指示通り行われた。

調査開始の笛と共に、開始5分・10分と指令を出し、安全第一で調査が進められた。雨の中で干潟のベントス(底生生物)の調査・確保を終了した。(つづく)

2人のベントスの干潟のセミナー



南三陸町志津川湾の多様性を考える

気仙沼・本吉地方 中総体結果

【バスケットボール】

〔男子〕◆1回戦 志津川 90 - 16 歌津 ◆準決勝 志津川 83 - 26 松岩 ◆決勝 志津川 69 - 42 条南 志津川県大会へ

〔女子〕◆2回戦 志津川 109 - 23 気仙沼 歌津 90 - 22 鹿折 ◆準決勝 志津川 81 - 6 面瀬 条南 60 - 49 歌津 ◆決勝 志津川 69 - 37 条南 2校県大会へ

【卓球】

〔男子〕◆団体▷予選Aリーグ ⑤志津川 ◆個人 ③芳賀孝也(志津川) 県大会へ

〔女子〕◆団体▷予選Bリーグ ①歌津②志津川▷準々決勝 条南 3 - 1 歌津 気仙沼 3 - 2 志津川 ◆個人 ⑤山内望愛(志津川) 県大会へ

【サッカー】

▷予選Aブロック 条南 2 - 1 歌津 歌津 7 - 2 新月 ▷予選Cブロック 志津川 1 - 0 鹿折 志津川 0 - 0 大谷 ▷準決勝 条南 1 - 1 志津川 (PK 3 - 1)

【野球】

▷1回戦 志津川 8 - 1 面瀬 (5回コールド)▷2回戦 志津川 10 - 3 新月 (5回コールド) 歌津 5 - 3 気仙沼 ▷準決勝 志津川 5 - 0 歌津 ▷決勝 志津川 8 - 0 津谷 (6回コールド) 県大会へ

【バレーボール】

〔男子〕松岩 2 - 0 志津川 面瀬 2 - 0 志津川 ③志津川

〔女子〕▷予選1グループ 新月 2 - 1 歌津▷予選2グループ 志津川 2 - 0 気仙沼 津谷 2 - 0 志津川 ▷準々決勝 志津川 2 - 0 大谷 ▷準決勝 面瀬 2 - 0 志津川

【剣道】

〔男子〕◆団体 ①志津川 2勝 県大会へ ②歌津 1勝 1敗

◆個人 ①三浦誠矢(志津川) 県大会へ ③小野陽輝(歌津)

〔女子〕◆団体 歌津 県大会へ(出場1校)

◆個人 ②三浦愛司(歌津) 県大会へ ③畠山七海(歌津)

【柔道】

〔男子〕◆団体 志津川 県大会へ(出場1校)◆個人▷50kg以下級 ②山内橙哉(志津川)

▷軽量級 ①高橋巨衣(志津川) 60kg級県大会へ ②小山拳士郎(志津川) 55kg級県大会へ ▷中量級 ①及川誠(志津川) 66kg級県大会へ

〔女子〕◆個人▷軽量級 ③佐藤咲希(志津川)▷中量級 ②佐々木真唯(志津川)

【ソフトテニス】

〔女子〕◆団体予選Bリーグ 志津川 2 - 1 松岩 志津川 3 - 0 津谷 志津川 3 - 0 唐桑

◆準決勝 志津川 2 - 0 大島 ◆決勝 大谷 2 - 0 志津川 県大会へ

◆個人 ⑤西城真羽・佐藤汐里組(志津川)三浦和佳子・佐藤妃万里組(志津川)

南三陸町の中学生の県大会の活躍を祈ります。